



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B4 安全で安心 できる社会	20140586013701	●安全で安心 できる社会 I(健康と医 療の安全・安 心)	和	E	浜田 久 之	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	~
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B4 安全で安心 できる社会	20140586014101	●安全で安心 できる社会 I(リスク社 会と社会科 学)	和	E	須齋 正 幸	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	~
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B4 安全で安心 できる社会	20140586014501	●安全で安心 できる社会 I(科学と技 術の安全・安 心)	和	E	林 秀千 人	1年,2年,3年,4年	後期	金 1	~

戻る

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B4 安全で安心できる社会**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586013701	科目番号	05860137
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅰ(健康と医療の安全・安心)		
編集担当教員	浜田 久之		
授業担当教員名(科目責任者)	浜田 久之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	浜田 久之, 菊池 泰樹, 池田 通, 鶴飼 孝		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	浜田久之: hhamada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	浜田久之 長崎大学病院医療教育開発センター		
担当教員TEL	浜田久之 095-819-7881		
担当教員オフィスアワー	浜田久之 8:45-17:30		
授業の概要及び位置づけ	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。		
授業到達目標	①健康と医療に関する日本のヘルスケアシステムを知る。 ②自身の健康増進のために何をすべきかを自覚する。 ③様々な疾病の一般的な知識を獲得する。 ④グローバルな視点で医療を考えることができる。		
授業方法(学習指導法)	基本的に講義形式とする。 内容により参加型の討論形式などを行う。		
授業内容	回	内容	
	1	10/2 世界における日本の医療システムについて説明し、日本の医療について考える。[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]	
	2	10/9 健康維持や生活習慣病予防について考える(循環器疾患を中心に。)[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]	
	3	10/16 健康維持や生活習慣病予防について考える(消化器疾患を中心に。)[長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]	
	4	10/23 現代社会における口腔管理の必要性 [歯学部 池田]	
	5	10/30 歯と骨の疾患の深い関係 [歯学部 池田]	
	6	11/6 種々の歯周疾患の病態、病因について理解し、歯周病の予防について考える。[歯学部 鶴飼]	
	7	11/13 噛むことの意義と全身の健康との関わりについて考える。[歯学部 鶴飼]	
	8	11/20 歯周疾患と全身疾患の関連性について考える。[歯学部 鶴飼]	

	9	11/27 インターネットの落とし穴 [保健学科 菊池]
	10	12/4 インターネットセキュリティー1 [保健学科 菊池]
	11	12/11 インターネットセキュリティー2 [保健学科 菊池]
	12	12/18 インターネットセキュリティー3 [保健学科 菊池]
	13	12/25 海外旅行で病気にならない方法 (予防接種を中心に) [長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]
	14	1/8 海外旅行から元気に生きて帰ってくる方法 (グループで事例検討) [長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]
	15	1/15 海外旅行のリスク (3回のまとめ) [長崎大学病院 医療教育開発センター 浜田]
	16	
キーワード	医療システム 健康増進 様々な疾病	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	出席時に毎回、テーマに関する考察 (200字~400字) を提出し、これを10点とする。100点以上を合格とする。90点以下は不合格。	
受講要件 (履修条件)	特になし	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	日頃より医療に関する新聞・TVニュース等に注目すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B4 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586014101	科目番号	05860141
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅰ(リスク社会と社会科学)		
編集担当教員	須齋 正幸		
授業担当教員名(科目責任者)	須齋 正幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	須齋 正幸		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)	1年から4年		
担当教員Eメールアドレス	msusai@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所3階		
担当教員TEL	095-820-6356		
担当教員オフィスアワー	木曜日1時から2時 研究室		
授業の概要及び位置づけ	リスクの概念は、ともすると人により異なる。社会科学においてもその傾向がある。本講義では、社会科学におけるリスクの概念を定義し、その共通理解を基に、リスクと社会のかかわりを考える。		
授業到達目標	リスクとは測定可能なものをその対象とし、不確実性や危機とは異なるものであることを理解する。そして、定量的にリスクを把握し、それをいかに合理的に回避するか、あるいは戦略的に保有するか、この意思決定過程を経験することで、個々が直面するリスクへ対処するための手法を身につける。		
授業方法(学習指導法)	講義により基礎概念、理論的基盤を教授する。それらを基に、ケーススタディーなどを用いて、リスクの計測、回避の方法などをグループでディスカッションする。		
	回	内容	
	1	リスクとは リスクの概念を確認し、その測定方法を教授する。	
	2	さまざまなリスク 数量的に測定できるリスクの他に、質的なリスクも計測することが必要となる。質的なリスクの測定方法について考える。	
	3	リスクへの対処 リスクが把握された場合に、次のステップはその事象への対処である。この対処方法を考える。	
	4	ケーススタディー 1 リスクを実際のデータを用いて計測する。	
	5	ケーススタディー 2 社会におけるリスク事象を探索する。	
		リスクの意味を考える	

授業内容	6	リスクは良いことなのか、あるいは必要なのか、その意味を考える。
	7	保険とリスク 一般に、保険は社会においてリスクへの対処方法の一つであると考えられている。保険の意味を考える。
	8	個人とリスク 個々の生活にかかわるリスクを考える。
	9	企業とリスク 企業活動とリスクのかかわりを考える。
	10	ケーススタディー 3 企業活動においてリスクに直面した場合の対処方法を検討する。
	11	リスクの必要性 リスクのない社会はどのようなものかを考える。
	12	リスクと社会 社会の抱えるリスクを考える。
	13	社会のルールとリスク 法律や制度の意味をリスクの観点から考える。
	14	ケーススタディー 4 社会の抱えるリスクを把握し、その意味を考える。
	15	最終報告会 1 あなたはリスクのある社会とない社会のどちらを選ぶか
	16	最終報告会 2 あなたはリスクのある社会とない社会のどちらを選ぶか
キーワード	リスク管理、統計学	
教科書・教材・参考書	配布資料を中心に、適宜指示する。	
成績評価の方法・基準等	講義での貢献（20％）、ケーススタディーへの貢献（20％）、最終報告（60％）	
受講要件（履修条件）	なし	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B4 安全で安心できる社会**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586014501	科目番号	05860145
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅰ(科学と技術の安全・安心)		
編集担当教員	林 秀千人		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀千人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀千人, 田中 俊幸, 久保 隆		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	教育, 経済, 薬学, 水産, 多文化		
担当教員Eメールアドレス	hidechto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部流体エネルギー工学研究室		
担当教員TEL	095-819-2516		
担当教員オフィスアワー	月から金8時から8時30分		
授業の概要及び位置づけ	危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養する。モジュール「安全で安心できる社会」の中で、実社会で安全で安心に生活できるような基礎的知識を身につける科目である。		
授業到達目標	安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごし危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要となります。 本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解することが目標です。		
授業方法(学習指導法)	基本的な事項について、講義により学習をする。さらに、テーマをもとに、みんなで安全・安心について考えて意識を高める。 安全・安心に関する提案を発表する。		
	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。 ・社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。 ・長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 ・身のまわりの電気機器や電磁波を中心に、目に見えないものが身体へ及ぼす影響について、安全をどうとらえ、安全安心へどのように取り組まれているかを紹介し、安全安心を考える。		

・身のまわりのさまざまな物質に関して、安全を確保するための規制や法律等さまざまな考え方をもとに、安全への取り組みを紹介し、安全安心を考える。する。

授業内容	回	内容
	1	第1回 安全と安心の基本的な考え方について(林)
	2	第2回 災害とリスクマネジメントについて(林)
	3	第3回 安全文化について(林)
	4	第4回 事故の事例と原因紹介(林)
	5	第5回 安全安心の意識調査(田中) 安全安心に関する提案のグループ分け
	6	第6回 安全・安心に関する法律(田中) 安全安心に関する提案の打ち合わせ1
	7	第7回 電気に関する安全安心(田中) 安全安心に関する提案の打ち合わせ2
	8	第8回 安全安心に関する提案の発表会(田中)
	9	第9回 電磁波に関する安全安心(田中) 安全安心に関する提案の総評
	10	第10回 自然災害と安全・安心 その1(高橋)
	11	第11回 自然災害と安全・安心 その2(高橋)
	12	第12回 自然災害と安全・安心 その3(高橋)
	13	第13回 化学物質の安全・安心 その1(久保)
	14	第14回 化学物質の安全・安心 その2(久保)
	15	第15回 化学物質の安全・安心 その3(久保)
	16	
キーワード	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心	
教科書・教材・参考書	安全・安心工学入門(古今書院)、必要に応じて資料を配布する。一部Web上に資料を公開する。	
成績評価の方法・基準等	レポート,発表,講義の理解度により総合的に評価する	
受講要件(履修条件)		
備考(URL)		
学生へのメッセージ	特に理由がない限り、講義に全回出席して下さい。オムニバスの講義なので、質問などは担当の教員に直接するようにお願いします。	

